

放射性廃棄物とどう向き合うかの会(第2回)

原子力安全部会・バックエンド部会 意見交換会

1. 企画内容

『放射性廃棄物とどう向き合うかの会』は、バックエンド部会と原子力安全部会との共催となっており、バックエンド部会と原子力安全部会のメンバーで、放射性廃棄物の処分について意見交換し、理解を深めることを目的としています。地層処分について情報の共有と意見交換を進めることで、放射性廃棄物への向き合い方、先々には社会的意思決定の在り方について、共感に基づく認識の共有を目指しています。

今回は、情報の共有から始めた第1回に続き、第2回として、意見交換を進めるための話題と論点について、フリーディスカッションを行います。

フリーディスカッションでは、両部会の有志間での議論から紡ぎだされた次の話題・論点案について、話題・論点の主旨の確認、他の話題・論点はないか、議論の進め方、などについて、会話の糸口となる材料を共有しながら、意見交換を行います。

【話題・論点案】

1. 廃棄物の最終的な取り扱いについて規制が判断すべきこと（規制の限界）と、現在の法整備状況
 - 何について、どこまでが安全規制の責任範囲か
 - 絶対安全の立場に立たない、処分の各段階における規制
 - 施設閉鎖（アクセス坑道埋め戻し）後、施設廃止措置（事業者規制終了）までの、責任の主体と責任の果たし方
 - 施設廃止措置（事業者規制終了）後の、責任の主体と責任の果たし方
 - これらについての法整備状況
2. 言葉・用語の適切性（「セーフティケース」）
 - 用語は大切→まず中身を理解→用語を考える
 - 大切な用語の一つとして、まず「セーフティケース」を取り上げたい

3. 不確かさを伴う超長期にわたる事柄についての意思決定・社会的合意のありかた
 - 社会的合意とは、安全性と経済性との調和か
 - 調和を表す指標・判定値は何か
 - 誰が判断するのか。どのようにして判断するのか

4. 国内の放射性廃棄物の量や所在を把握するための制度は必要ないか
 - 総量も容易には確認できないのが現状

なお、前回と同様に意見交換会では、今の時点で何が正しいと結論付けることはせず、互いの考えを理解する取り組み・プロセスが大切と考えています。このため、反対意見・少数意見・微妙に違った意見を大切にしながら、将来に向けた考え方の共有を目指したいと考えています。

また、意見交換にあたっては、次のことを留意するようになりたいと考えております。

- (1) ワンボイスは求めない
- (2) 互いの考えを理解しようとする（否定から入らない）
- (3) 会話を継続する

2. 日時

2022年1月26日（水） 15：00－17：00

3. 実施方法

オンライン開催。参加費無料。

※参加申込完了後、接続先のご連絡及び資料を送付いたします。

参加をご希望の方は、【参加者氏名、所属先】を明記の上、f-yamada@rwmc.or.jpまでご連絡ください。件名に【放射性廃棄物とどう向き合うかの会（第2回）】と記載して頂けると幸いです。

以上